

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078700145		
法人名	有限会社 裕和		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市瀬高町小川1152-4	(電話)	0944-63-2256
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(20年1月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / <u>改築</u>
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>無</u> (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (1月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.9 歳	最低 82 歳	最高	97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	植田医院、安野歯科、新船小屋病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古い民家を増改築した、歴史を感じさせる建物で、独特な温かみや生活感がある。管理者は、職員の人材育成や入居者の日常生活について試行錯誤を繰り返しながら、熱意と信念を持って運営に携わっている。また、内部の造作やインテリア等が手作りであり、入居者にとっても居心地の良い空間となっている様子がうかがえる。近くへの移転が決まっているとのことである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘されたこと(換気・空調、事故報告書、ホーム便りの発行など)は、全員が取り組み改善を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>すでに4回目を数え、真摯に受け止め、結果を日々の運営に役立たせている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行われ、よく整理された議事録を残している。グループホームの現状や問題点、入居者個人のことについてまで細かく議題にあがっている。討議の内容が、取り組みの上でより活かされるよう期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族への報告はホーム便りなどで行い、また家族の来訪も見受けられるが、意見の吸い上げは十分ではなく、意見箱などもあまり機能していないため、家族の意見等が運営に反映されるような工夫が期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>機会があるごとに交流を目的とした取り組みを検討しているが、地域の自然な形での受け入れは、難しいようである。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり、ゆったり、その人らしく」という独自の理念を作り上げ、玄関をはじめ館内数ヶ所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を全員で朗唱し、倫理綱領も輪読しているとのことで、理念をよく理解し実践するための取り組みを行っているが、職員の中には理念と倫理綱領を混同している方がいる。		理念を掲げ、また全員で朗唱することの意味を考え、実践につなげることに期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	機会があるごとに交流を目的とした取り組みを検討している。近くの神社の草取りを定期的に行っているが、それでもなかなか地域の方に受け入れてもらえない、とのことである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を日々の運営に役立てている。前回の外部評価で指摘されたこと(換気・空調、事故報告書、ホーム便りの発行など)は、全員が意識して改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に確実に行われ、よく整理された議事録を残している。さまざまな報告、提案がなされ、充実した会議であることが想像されるが、会議だけで終わってしまい、改善を図るところまで至らなかったケースもある。		会議で話し合われた内容については、今後の運営に役立たせることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回「市」から相談員が来られるが、「連携」というところまでには至っていない。事務手続等で市とやり取りはあるが、グループホーム側は、市に対して、現状に対する理解が少し足りない、と考えている。		相談員の派遣を足がかりに、市に対しては、現状の問題点や協力を求めたい点などを強くアピールすることが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会は行ったことがあるとのことだが、実際に利用者がおらず、職員への浸透も不十分で、支援できる体制には至っていない。		実践がないとのことだが、勉強会等でいつでも事例に対応できるよう備えることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを発行し、ボランティアによる毛筆の手紙を出すなど、報告を行っている。職員の異動については報告していないとのこと。また、預り金を使った際の明細の通知、報告は不十分である。		職員の異動については、ホーム便りの中で、新任職員紹介のような形で簡単に掲載するなど、工夫に期待する。また、預り金の明細については、毎月の請求書や便りと一緒に郵送するようなシステムをつくり、併せて、領収証の原本は家族に送付し、ホーム側はコピーを保管するような取り組みを期待する。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、あまり反応はないようで、ホーム独自のアンケートなどをして意見の吸い上げを目指している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は幾分多いが、利用者への気遣いは行っており、配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の上級資格取得についても前向きである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修などを受講している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の勉強会、研修への参加は、積極的に促しており、管理者や職員は任意の参加であっても進んで受講している。ホームの補助により、北海道など遠方の研修にも参加している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研究会等に参加している。自主的な勉強会までには至っていないが、研修会等で交流する機会は多い。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用なども含め、サービス開始までの間に慎重に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1ユニットの少人数のグループホームである特徴をよく理解し、喜怒哀楽を共有する機会が多い。農業をしていた方が多く、畑仕事を率先したり、あるいは調理や裁縫が得意な方から職員も学んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントを綿密に行い、希望や意向は的確に把握、職員はそれを共有して、希望に沿えるよう努力している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランの作成にあたって、本人の意思を反映させることは難しい点もあるが、家族とは日常生活上の課題やケアのあり方をよく話し合い、意見を盛り込むよう取り組んでいる。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者でもある介護支援専門員が率先して、関係者と協議の上、適宜見直しを行っている。ケアプランはパソコン入力を複写したものではなく、毎回その都度手書きで書き加えている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>多岐にわたった要望に応じられる施設としての自負があり、さまざまな状況や要望には柔軟に対応をしている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診は夜も行っており、かかりつけ医とは非常に密なる連携をとっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に当たって、医師、家族とよく話し合い、またその内容を職員全員共有の上で介護計画を立てて実施、支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー上問題のある言動はなく、職員教育が徹底している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思表示、自己決定能力などの読み取りに限界を感じることもあるが、個人の特性を生かして、希望に基づくその人らしい生活ができるよう実現を目指している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどは入居者も楽しみながら協力している。職員も一緒に同じ食事を取っている。管理者が管理栄養士だけに、栄養や食事制限などの管理、好みの反映などがきちんとできている。ヘルパー、介護職員とは別に、調理スタッフ2名を採用している。		長年の運営の中で試行錯誤を繰り返して今の体制にたどり着いたとのことだが、調理、介護の両面を通して入居者のことを知る必要があると思われる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ずつゆっくり入ることができる。曜日や時間帯等については、入居者の希望どおりにはいかず、職員の都合に合わせて決めてしまうことがある。		時間帯の見直しを行い、少しでも希望に沿える入浴介助に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとりに食事の準備や片付け、清掃などの役割がある。また、定期的に習字を教えに来てくれる方がおり、全員熱心に取り組んでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物などで外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	実践しているとともに、職員も意味を理解している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議などで議題にあげて働きかけを行っているが、地域の協力がなかなか望めない。また職員間で、避難誘導場所の周知ができていない。		マニュアルを元に職員間で対応の方法を共有しようという意識を持ち、避難場所の周知徹底が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が管理栄養士であり、専門的な視点で経過を観察し、支援を行っている。毎回の食事の献立まではチェックしていないが、栄養バランスについては調理スタッフを指導し、食事摂取量などについても記録している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家を増改築したもので、生活感の漂う、非常に家庭的で暖かい雰囲気がある。不快な音や光を感じさせることもなく、また掲示物等も季節感を持たせるよう工夫している。トイレや居室には目印をつけている。庭には犬を飼っており、また天気の良い日には外でくつろぐスペースもある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、仏壇、家族の写真など本人の馴染みの物を持ち込んでいる。入居者によっては、ホームの古くなったソファを居室に配置したり、ベッドや布団をホームから借りたりもしている。居室が古い住宅の一室であったことから、押入れや棚などが造作された部屋もあり、居心地の良さが感じられる。		